



第21号

平成27年12月9日発行

長崎市社会福祉協議会

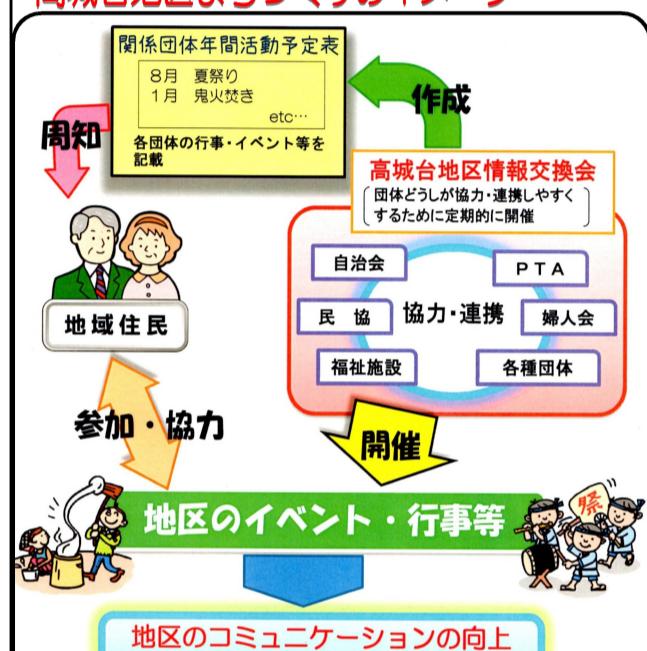
長崎市上町1番33号

TEL : 828-1281

深めよう！地域の絆

地域活動の限界

高城台地区まちづくりのイメージ



タイスマック！！

A photograph of a group of people in a kitchen, likely a cafeteria or school kitchen, preparing food. In the foreground, a woman wearing a dark patterned shirt and a white apron is focused on her work. Behind her, several other individuals in white uniforms and hats are also engaged in food preparation. The kitchen has wooden cabinets and a whiteboard with handwritten notes in the background. The entire image is surrounded by a decorative border consisting of various stylized leaves and flowers in shades of green, pink, and yellow.

くりから買い出しまで限られたお金の中でやりくりをしなければならず大変な仕事ではあるけれど、料理をつくるのが好きだし、献立をつくるのが楽しいと西村さんはおっしゃいます。ボランティアや地域の活動といふと大変という印象があるかもしれません。しかし、大変なことの中に“楽しみ”や“やりがい”を見出すことで充実した日々を送れることができるのかもしれませんね。

支部長の熱い思いを込めて始めた情報交換会ですが、始まつた当初は「開催する目的がわからないうちに、受けた側はどうしたらいいのか」「情報発信するのはいいの交換会の前に解決しなければならないことがあることに気づかされました。そこで、再度、支部三役で協議を行い、試行錯誤しながらその解決策を考え、メンバーの理解と協力を呼びかけていきました。その甲斐もあり、現在では活性化した。発な意見が飛び交っています。例えれば、学童保育がハロウイーンで、子供たちが地域の中のお宅を回つてお菓子をもらうので、お菓子を配る協力ができるお宅を自治会にお願いしたり、福祉施設でイベントがあることの周知をお願いしたりするなど、徐々に情報交換

度から始まつたこの情報交換会のメンバーは、高城台地区内の自治会、民生委員、老人会、消防団、PTA、小学校、保育園、幼稚園、学童保育、福祉施設、地域包括支援センターといつた団体の代表者でした。単独の団体だけではできないうことも情報交換会で、協力をしてほしいことを発信し、地区全体で活動やイベントを盛り上げて、住み良いまちを作つていいこう！と、いう支部長の思いのもとにこの情報交換会は産声を上げました。

会が定着していっています。来年度からは、開催も定期的（3ヶ月ごと）に実施する予定で、今後ますます活発な情報交換を目指しています。そして高城台支部において情報交換会と共に推進していくのが、地区内の関係団体の主な活動予定を一覧表にした『高城台地区関係団体の年間活動予定一覧』の作成です。これは、地区の活動やイベントを地域住民の方に知つていただくために、それぞれの団体が、地域住民の方に知つてもらいたい活動を記載して、地区内の各自治会で回覧をします。



西村 桂子著

長崎市社協仁田支部でふれあい食事サービス（以下、「食事サービス」という。）のボランティアの代表をされている西村恭子さんにお話を伺いました。西村さんが食事サービスのボランティアの代表となつたのが今から5、6年ほど前だそうで、現在では献立決めや食材の買い出しなども主に西さんが担当されています。献立決めの際に工夫している点として、前代表者の方が大切にしてきた「季節感のある料理を」という考え方を受け継ぎながらも、今までとは違つた新しい料理を作つていただきたいと話しておられました。これまで食事サービスに携わってきた中での感想について聞いてみると、「参加者の方から『美味しい』と言つていただけると元気が湧いてくるんです。」、「道端でお話ししてくださいさり、インタビ

ことを実感できました。また、西村さんは、食事サービスのボランティア以外にも、高齢者ふれあいサロンのサポートや、食生活改善推進員としての活動、その他地元の婦人防火クラブ、自治会活動など、日頃から地域福祉活動に精力的に取り組まれています。西村さんは、このように地域の活動に積極的に参加で起きるのは、家族の理解があるからだとおっしゃいます。西村さんのご主人も民生委員をされていた経験があり、現在もさるくガイドのボランティアにいそしむれるなど、ご夫婦揃つて活動的であるということがわかりました。最後に、西村さんに今後の目標について聞いてみました。すると、西村さんは現在代表を務める食事サービスの「引継ぎノート」を作成しているそうで、自分の後に食事サービスの代表として活動を継続してくれる人を募集中とのことでした。食事サービスは献立づ

社協會冒募集中!!

『地域なんでも情報局』は、市民の皆様からお寄せいただいた社協会費により発行しています。

